

建設業、達成感が魅力

日建協 北大工学部で出前講座



建設業の魅力を伝えた

日本建設産業職員労働組合協議会は20日、北大工学部で、環境社会工学科3年生約40人を対象に出前講座を開いた。建設業の社会的役割などを伝え、やりがいのある仕事であることを強調し、就職を呼び掛けた。

日建協は、国内の準大手ゼネコンや地方ゼネコンなどにある36組合で組織。2006年から毎年、出前講座を開き、学生に建設業の魅力を伝えている。

北大での出前講座で日建協政策企画局の岩永一郎さんは、日本の災害リスクが高いことを指摘し、「これからは防災、減災、老朽化対策がメインになる」と見通した。

続いて、戸田建設職員組合の横山洋司さんがゼ

ネコンの仕事を自身の経験を交えて紹介。「ゼネコンは多種多様な工程と関わるができる。大きなプロジェクトの最前線で指揮・監督し、完成した達成感や充実感が得られる仕事」と説明した。一方で「計画通りに行く現場などない。知識や経験を生かし、さまざまな問題を解決していく必要がある」と説いた。

日建協の時枝将雄副議長は「若者が減って危機的な状況だ。賃金水準の向上や休日の拡大など、多様な働き方が可能な業界を目指している」と、業界を挙げて処遇改善を進めていることをPRした。

学生らは、どのように問題解決能力を養ってきただかなどを質問。建設業について理解を深めた。